

2025 年 5 月 9 日

The Emerging Markets Weekly

アジア通貨を中心に堅調、米英通商合意でリスク心理は改善

新興国市場:先週末 2 日アジア時間、米中貿易摩擦の緩和への期待が支援材料となり概ね上昇。TWD が前日比+3.8%、KRW や MYR、THB は同+1.0%超値を伸ばした。欧米時間、米 4 月雇用統計の結果の影響は限定的となり大半が小幅高。ZAR が買われる一方、RUB は前日比▲1.0%下落した。週初 5 日のアジア時間は先週末の流れが継続。TWD は前日比+2.4%上昇し、2022 年 6 月以来の水準をつけた。MYR も前日比+1.3%値を伸ばした。欧米時間、米 4 月 ISM 非製造業景気指数が市場予想を上回りドル安が一服し、まちまちな動き。MXN や BRL が売られたが、RUB は前日比+2.9%上昇した。6 日アジア時間も方向感ない動き。THB が前日比+1.2%、CNY も値を伸ばした。片や、MYR と TWD は小幅下落。欧米時間、米 3 月貿易収支が史上最大の赤字となったことが嫌気されるもまちまち。RUB が前日比▲1.2%下落。ZAR は小幅に値を伸ばした。7 日のアジア時間は、休場明けの KRW は上昇した。一方、IDR や INR は軟調。欧米時間、FOMC は市場予想通り現状維持となり、市場への影響は限定的となったが、米中通商協議開始への期待からドルが買われ、大半が小幅下落。BRL が売られた一方で、RUB が上昇した。8 日アジア時間は概ね下落。INR やマレーシア中央銀行(BNM)の金融政策会合を控えた MYR が前日比▲1.0%超下落。欧米時間、米英通商合意や米国の対中関税引き下げ期待からドルが上昇、リスクオフムードも後退し中南米通貨は買われた。BRL はブラジル中央銀行(BCB)が利上げしたことも支えとなり前日比+1.5%上昇。他方、RUB は前日比▲2.1%値を下げた。

アジア:2 日公表の韓国 4 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.1%と前月から横ばい、市場予想を上回った。同日発表のインドネシア 4 月 CPI は前年比+1.95%と前月から加速し、市場予想を上振れた。同日公表のインドネシア 1~3 月期実質 GDP 成長率は前年比+4.87%と 10~12 月期から鈍化し、市場予想(同+4.92%)を下回った。6 日発表のフィリピン 4 月 CPI は前年比+1.4%と前月から鈍化し、市場予想も下振れた。同日公表のベトナム 4 月 CPI は前年比+3.12%と前月から減速し、市場予想も下回った。同日公表のタイ 4 月 CPI は▲0.22%と前月からマイナスに転じ市場予想よりもマイナス幅が大きかった。中国人民銀行(PBoC)は 7 日、銀行の預金準備率を▲50bp 引き下げると表明した。8 日発表のフィリピン 1~3 月期実質 GDP 成長率は前年比+5.4%と 10~12 月期から加速するも市場予想(同+5.7%)を下回った。BNM は同日政策金利を 3.00%に据え置くことを決定した。据え置きは 12 会合連続。

ラテンアメリカ:BCB は 7 日、政策金利を+50bp 引き上げ、14.75%にすることを決定。利上げは 6 会合連続。世界的な不確実性と国内の根強いインフレを踏まえ、今後の政策指針についてはガイダンスを示さなかった。8 日発表のメキシコ 4 月 CPI は前年比+3.93%と前月から加速し、市場予想を僅かに上振れた。

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(新興国)

グローバル製造業 PMI は 4 か月ぶりに中立水準割れ

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数 (PMI) によれば、4 月製造業 PMI は 49.8 と 3 月 (50.3) から低下し、4 か月ぶりに中立水準 (=50) を割り込んだ。先進国 (49.1→49.1) はまちまちの結果も、前月に続いて中立水準を割り込んだ。片や、新興国 (51.3→50.5) は新規受注や購買品在庫を中心に低下も、7 か月連続で中立水準超えを確保した (図表 1、2)。一方、グローバル非製造業 PMI (52.6→50.8) は低下。先進国 (52.5→50.3)、新興国 (53.1→52.2) と総じて軟調だった。

これらを合わせたコンポジット PMI は 50.8 と前月 (52.0) から低下も、27 か月連続で中立水準超えを維持。世界の GDP 成長率は 2024 年 10～12 月期に +3.36% (前期比年率) と前四半期から伸びが僅かに加速 (図表 3)。PMI の推移を確認する限り、1～3 月期および 4 月は落ち込みを見せているようだ。

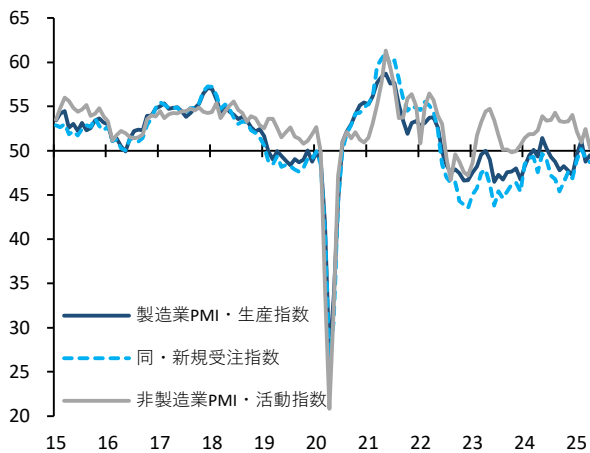
製造業 PMI に関し、グローバルな金融政策動向を占う上で重要な、価格関連の指数を確認したい。仕入れ価格・出荷価格は、前者はほぼ横ばいだった一方、後者は僅かに上昇した (図表 4)。既報の通り 4 月からは一部相互関税が開始されているが、PMI の指数を確認する限り、川上部門において顕著な物価上昇は見られない。震源地である米国の製造業・仕入れ価格を確認しても、66.0 から 65.2 にむしろ低下している。米国に限らずグローバルに共通するのは、ここもとの仕入れ価格と出荷価格の方向性の違いである。即ち、製造業企業が価格マージンを広げている可能性がある。「トランプ 1.0」でも、関税とは無関係の品目で便乗値上げは起こっており、これが再現されているのではないかな。

製造業 PMI の構成指数別では、生産以外の 4 項目が PMI の低下に寄与した。生産指数は先進国主導で上昇し、4 か月連続で中立水準を維持した (図表 5)。一方、新規受注は新興国主導で悪化し、4 か月ぶりに中立水準を割り込んだ (図表 6)。雇用も新興国主導で悪化し、9 か月連続で中立水準割れを記録 (図表 7)。また、購買品在庫も新興国主導で悪化し、14 か月連続で中立水準を割り込んでいる (図表 8)。生産見通しの停滞が、在庫圧縮の流れに寄与している。加えて、入荷遅延 (逆インデックス) は新興国主導で上昇も、11 か月連続で中立水準を割り込んでいる。引き続き、海運ルート of の乱れや関税に伴う不確実性を前にした駆け込み需要などを反映している可能性が高い。

個別の新興国では、インドネシア製造業 PMI の軟調さに着目したい。4 月分の結果は 46.7 となり、実に 4 年弱ぶりの低水準を記録した。構成項目やサブインデックスを確認すると、新規受注や生産の落ち込みが目立つ。新規輸出受注の落ち込みは (相対的に) 抑制されているので、内需の短期的な先行きが悲観されていると解釈可能だ。これに呼応するように、購買品、完成品の在庫も大きく取り崩されており、企業が緊縮策を講じている絵姿が見えてくる。中期的な生産見通しを示す指数は依然強く、尚且つ単月のデータのため判断できないが、域内の生産活動の変調が始まっている可能性も否定されない。

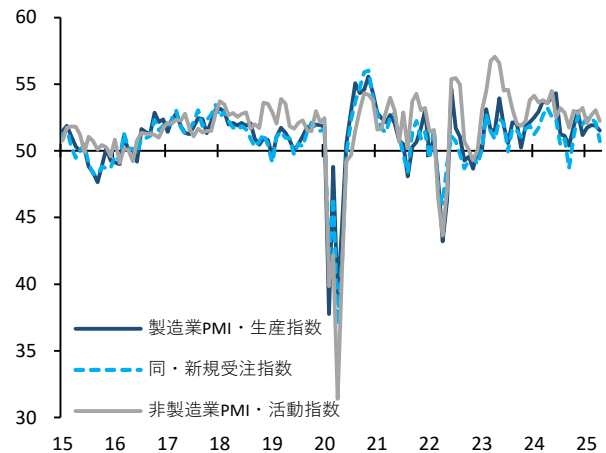
(注) 各国・地域別の PMI のグラフについては、5 月 7 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1:先進国



出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 2:新興国



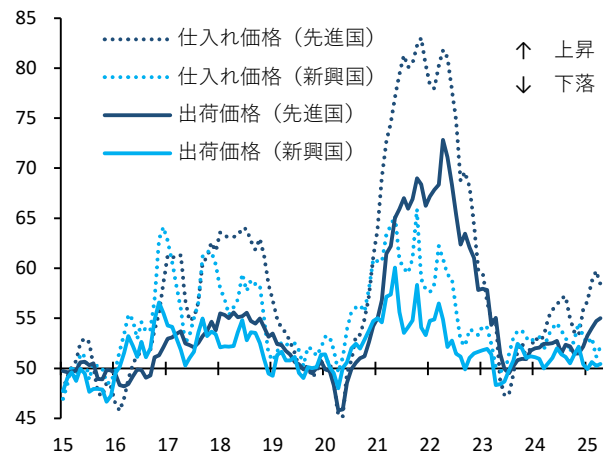
出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 3:グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率



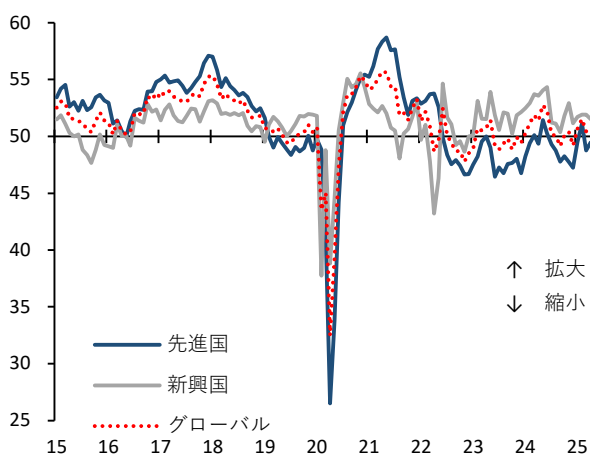
出所:S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4:製造業 PMI・価格指数



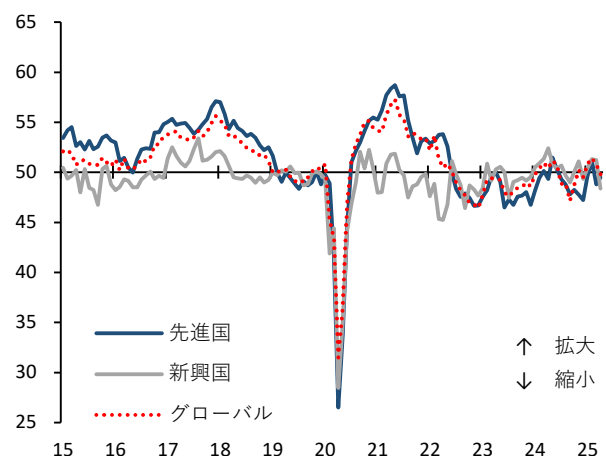
出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 5:製造業 PMI・生産指数

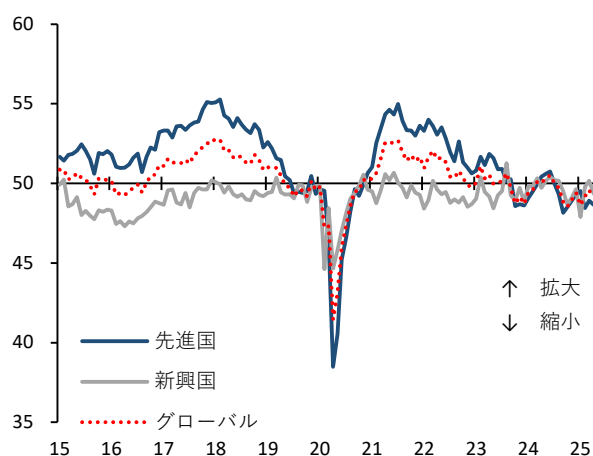


出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 6:製造業 PMI・新規受注指数



出所:S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・雇用指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 8: 製造業 PMI・購買品在庫指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

市場概観(ブラジル)

利上げガイダンスを破棄した BCB

国際為替部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

ブラジル中央銀行(BCB)は 5 月 7 日、金融政策委員会(Copom)を開催し、政策金利(翌日物金利、Selic)を従来の 14.25%から+50bp 引き上げ、14.75%とした(図表 1)。前回会合までは+100bp の利上げが 3 回続いていたが、今回で利上げ幅縮小が選択された格好。決定も全会一致だった。前回 3 月会合の声明文は、「次回会合で調整幅を縮小することを予想する」としていたので、利上げ幅縮小は既定路線だった。

最新の域内物価動向に関し、4 月 25 日公表の 4 月半ばまでの 1 か月間のインフレ率(IPCA)は、+5.49%(前年比、以下同様)と市場予想にほぼ一致したものの、前回の+5.26%から伸びが加速した(図表 2)。引き続き、本年のインフレ目標である+3.0%(±1.5%)を上振れて推移している。エネルギー・食品・飲料を除いた指数も筆者試算で+4.49%と 14 か月ぶりの高水準を付けており、基調的物価の伸びも強い。インフレ警戒を解ける段階にはない。

かかる中、先々のインフレ見通しは、前回会合以降横ばい圏で推移している。BCB の市場サーベイ(5 月 2 日集計)によれば、市場参加者の IPCA 見通しは 2025 年で同+5.53%、2026 年で同+4.51%だ(図表 3)。前回会合時点の調査より、それぞれ▲0.13%ポイント、+0.04%ポイント修正された。なお BCB は、2025 年のインフレ見通しを+4.8%とし、前回会合から▲0.3%ポイント下方修正した。インフレ見通しのリスクバランスに関する文言に関しては、「上振れ、下振れともにリスクは通常よりも高い」と説明した。前回会合までは「上方に傾いている」と言及されていたので、やや警戒姿勢を弱めた模様だ。上振れリスクに関する文言に関しては前回会合から一言一句不変であったが、下振れリスクに関しては、「商品価格の下落」が要素に追加された。

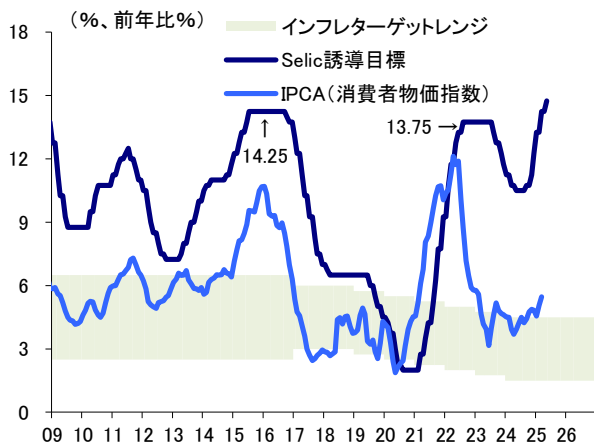
こうした中、上述の BCB サーベイでは、年末の政策金利見通しに関し、2025 年で 14.75%、2026 年で 12.50%となっている(図表 4)。前回会合時点の調査結果から 2025 年末の数字が▲25bp 下方修正されている。会合ごとのパスの予測(中央値)を確認する限り、もう一度利上げ(+25bp)の利上げが行われ政策金利が 15.00%に達したのち、年内最後の会合で▲25bp の利下げが予測されているようだ。以上、BCB は予告通り利上げ幅の縮小を決定した。そのうえで、今後の金融政策決定に関しては、「さらなる慎重さと、インフレ見通しに影響を与えるデータを取り入れる柔軟性が求められる」と述べるにとどめた。今次利上げ局面で必ず見られてきたガイダンスが撤回されたと解釈可能だ。

BCB がガイダンスを破棄した背景は、言うまでもなく「不確実性」だ。実際、声明文では、「不確実性が大きくなるというシナリオ」が、金融政策における慎重さと柔軟さの必要性を高めた旨が記載されている。政策金利のパスを示せる状況にはないのだろう。もっとも、今後も大幅な利上げが続くとは考えにくい。政策金利から 1 年先の期待インフレ率を差し引いた短期実質政策金利は、5 月会合終了時点で+9.79%であり、BCB が想定する中立金利である+5.00%のほぼ倍に位置している。インフレ期待のデアンカリングや需給ギャップのタイト化を加味しても、明らかに「引き締め過ぎ」だ。そして、PMI 等の経済指標を確認する限り、足許の景気は失速傾向にあるようだ(図表 5)。実際、今回会合の声明文では、「成長の初期の鈍化が見られる」とやや弱気な記載がみられている。加えて、「金融政策サイクルが進んだ段階(advanced stage)

にある」「累積的な(利上げの)効果がまだ観察されていない」ともしており、今次利上げ局面が終わりに近づいていることをそれとなく示唆している。以上の情勢に鑑み、遅くとも次回会合でターミナルレートに達したのち、10～12 月期以降は利下げサイクルに突入すると考えたい。現状筆者が想定する政策金利パスは、2025 年末時点で 14.50%程度、2026 年 6 月末時点で 12.50%程度だ。

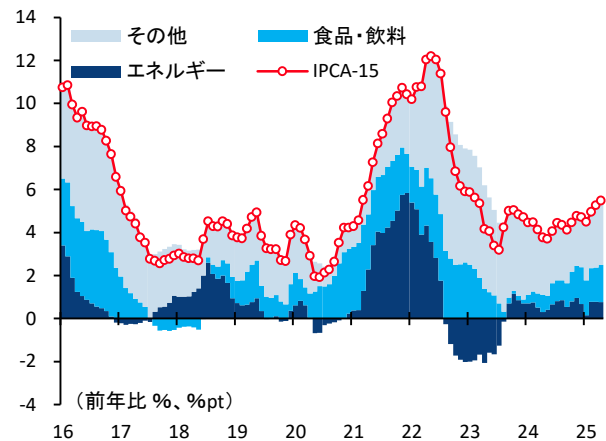
5 月に入ってから Copom にかけての BRL は、下落基調で推移している(図表 6)。一部軟調なブラジル経済指標、ブラジル株安などが重しになった模様だ。年央にかけての BRL は、引き続き上値の重い推移を想定する。BCB の利上げサイクルも終わりに近づく中、金利の先高観を見込んだ BRL 買いは続かないとみる。IMM 通貨先物ポジションを見る限り投機の BRL 買いも相応に積み上がっており、今後は逆進に警戒すべきと考えている。加えて、足許では域内財政にかかる懸念はそれほど材料視されていないが、ルラ大統領の支持率低下が鮮明になっている。加えて、来年に大統領選挙を踏まえている現状も踏まえれば、再び財政悪化懸念が BRL の重しになる可能性にも警戒したい。

図表 1: 政策金利とインフレ率(IPCA)



出所: ブラジル中央銀行、ブラジル地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

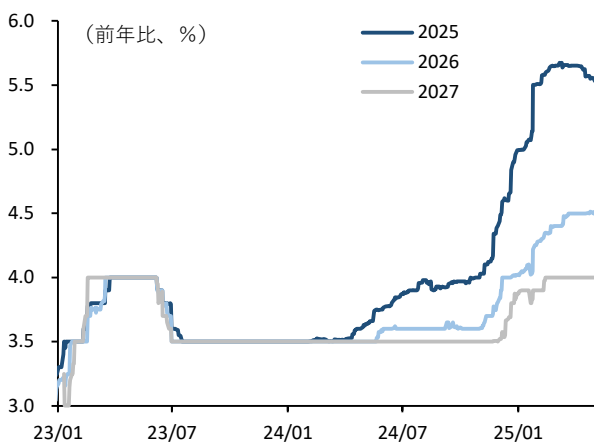
図表 2: インフレ率(IPCA-15)の品目別寄与度



(注) エネルギーは国内燃料と自動車用燃料の合計

出所: ブラジル地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

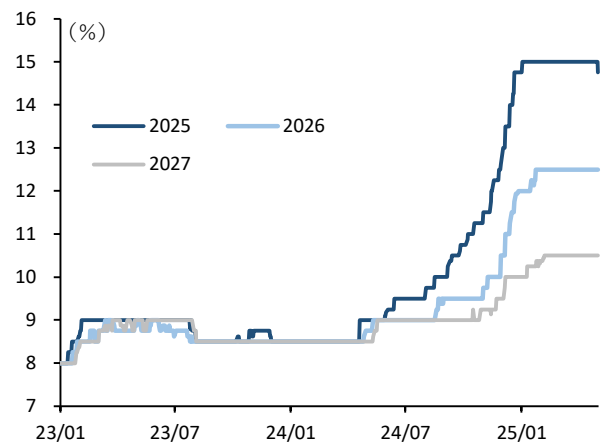
図表 3: BCB 市場サーベイ(年間 IPCA 見通し、中央値)



(注) 2025 年 5 月 2 日時点

出所: ブラジル中央銀行、Macrobond、みずほ銀行

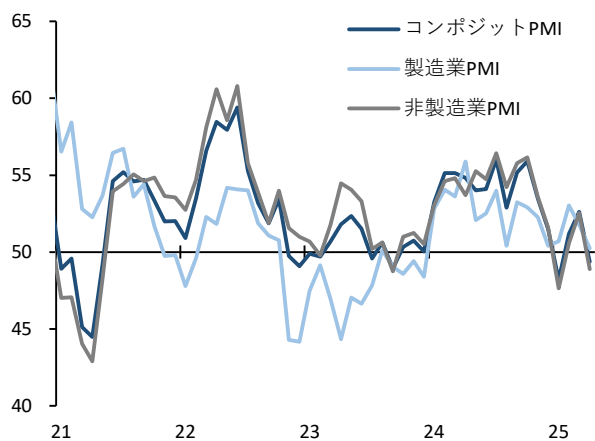
図表 4: BCB 市場サーベイ(年末の政策金利見通し、中央値)



(注) 2025 年 5 月 2 日時点

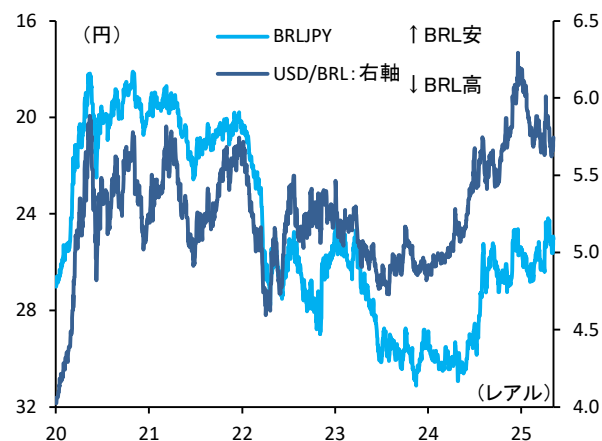
出所: ブラジル中央銀行、Macrobond、みずほ銀行

図表 5: ブラジル PMI の推移



出所: S&P Global、みずほ銀行 ※中立水準=50

図表 6: BRL スポットレート(日足)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(マレーシア)

5 月金融政策会合～現状維持も先行きの景気減速懸念を強める

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マレーシア中銀(BNM)は 8 日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の 3.00%に据え置いた。政策金利の現状維持は 23 年 7 月以降、12 会合連続での決定となった(図表 1)。ブルームバーグの事前予想では現状維持が優勢だった。

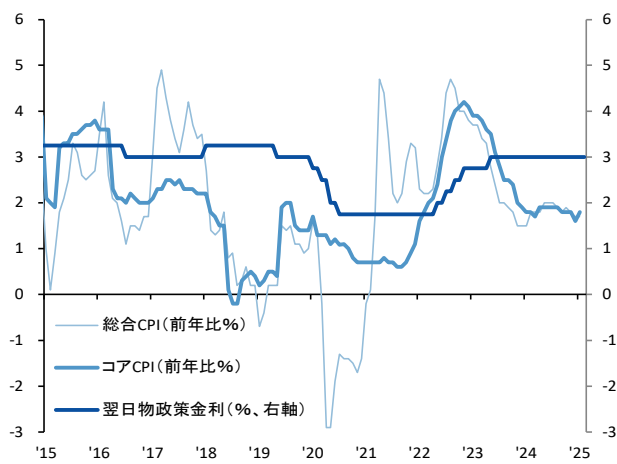
声明文では前回 3 月会合に続いて世界経済の成長は続くとの見方を示した一方、米国の通商政策や世界各地での地政学リスクの高まりなど複数のリスク要因を指摘し、これらが世界経済や金融市場の不確実性を高めていると指摘した。マレーシア経済については、堅調な内需と輸出の伸びを背景に成長が継続していると総括した。もっとも、1～3 月期の実質 GDP 成長率(速報)は前年同期比+4.4%と前四半期の同+5.0%から減速したこともあり、先行きについてはやや弱気な見方を示している(図表 2)。具体的には世界的な保護貿易の流れを受けて、景気が減速して資源価格が下落すること、輸出の鈍化を受けて国内の消費・投資活動に影響が及ぶことを要因に挙げている。足許の輸出動向を見ても、3 月の米国向けの輸出が同+50.8%と全体を大きく押し上げているが、トランプ政権による関税強化の決定を見越して輸出が前倒しされている感は否めない(図表 3)。政府と中銀は今年の経済成長率見通しを前年比+4.5～5.5%としているが、世界経済減速懸念が深刻化すれば、成長見通しが下方修正される可能性は否定できない。

物価動向に関して、直近 3 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.4%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースは同+1.9%を記録した(図表 4)。年初以降は BNM の想定通り資源価格の軟化がインフレ抑制の支援材料となっているが、マレーシア国内で実施された最低賃金の引き上げがもたらす影響には注意したいところだ。なお、BNM はインフレが制御可能な水準で推移するとの見方を維持しており、25 年のインフレ見通しを総合ベースで前年比+2.0～3.5%、コアベースでは同+1.5～2.5%と予想している。

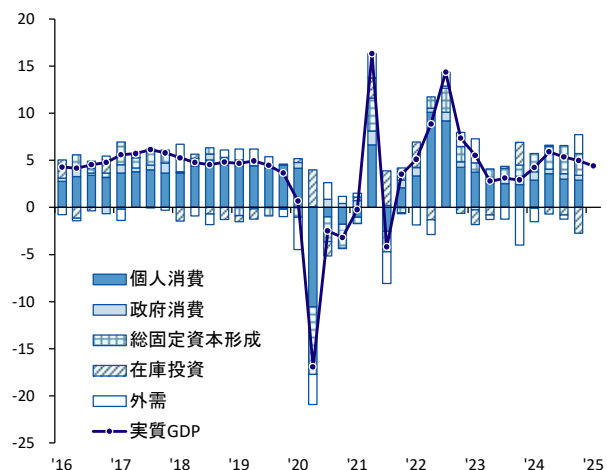
かかる中、BNM は現行の金利水準は引き続き景気を下支えし、現行の物価と経済の評価と整合的であるとして、政策金利を維持した。一方で、先行きの景気減速懸念が強調されたように、全般的な景気・物価に関する評価は弱気になっていると思われる。このため BNM の次の一手は利下げになるのだろうか、米国間との通商交渉に折り合いがつかない状況下、政策決定が後ずれしているようにも見受けられる。これは BNM のみならず周辺国中銀に共通する動きであり、この膠着状態は相互関税の発動延期期日とされる 7 月 9 日まで続いても不思議ではない。

会合後の MYR 相場の動きは限定的だったが、5 月に入りアジア通貨は広範に買われており、MYR にも影響が及んだ(図表 5)。BNM は足許の MYR の上昇は金融市場における「米国売り」など外部要因によるものと言及するに留めた。5 月前半のアジア通貨上昇の裏では、米国との通商交渉の材料として各国に自国通貨の切り上げを迫ったとの観測も浮上したが、マレーシア中銀の外貨準備高に目立った変化は無く、現状では憶測の域を出ない(図表 6)。むしろ、トランプ政権の要求が総じて自国の貿易赤字の縮小・米国投資の増加であることを踏まえれば、為替需給の観点からもアジア通貨高の流れは長続きしないと考えている。また、BNM 会合の直前に実施された FOMC でも、早期の金融政策の変更は否定されており、一貫性のないトラン

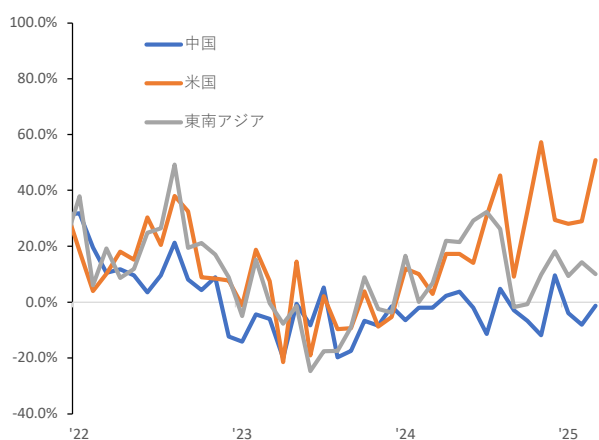
プ政権の情報発信に相場が上下する時間帯はあるものの、ドルの下値は限定的であると予想する。

図表 1: 政策金利とインフレ率


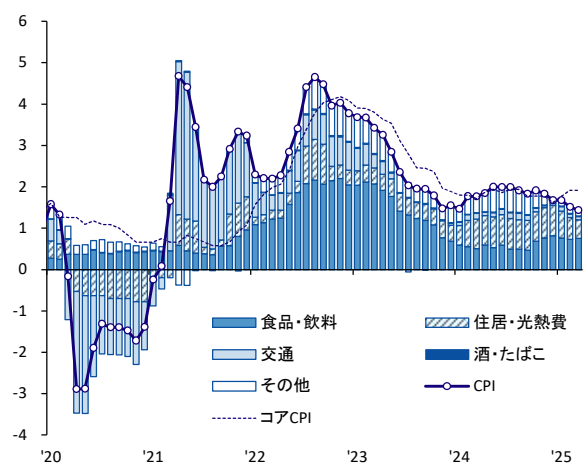
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の推移(前年同期比%、%ポイント)


出所: CEIC、みずほ銀行 注: 25 年 1～3 月期は成長率のみ

図表 3: 地域別輸出実績 (前年比%)


出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 消費者物価指数の動向


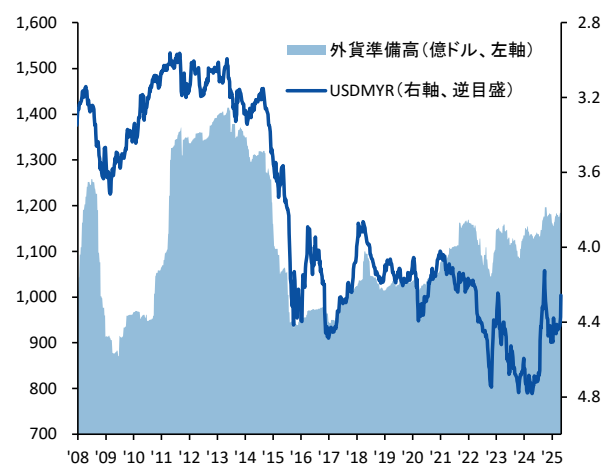
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 5: 対米金利差と MYR の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

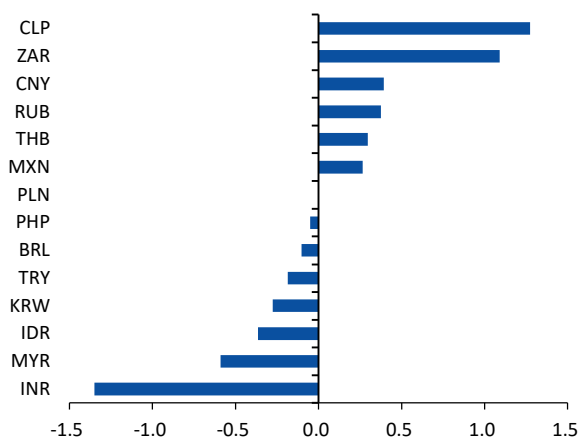
図表 6: 外貨準備残高と MYR 相場



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

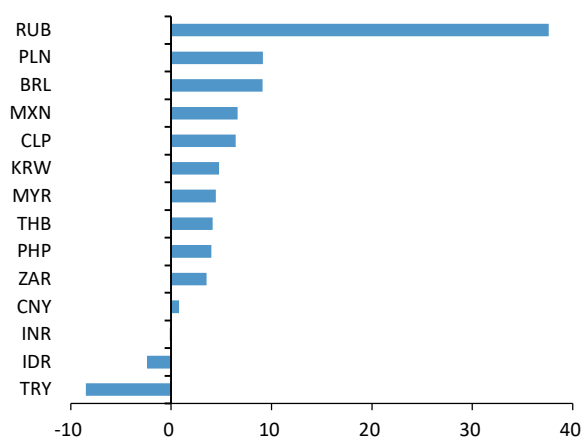
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



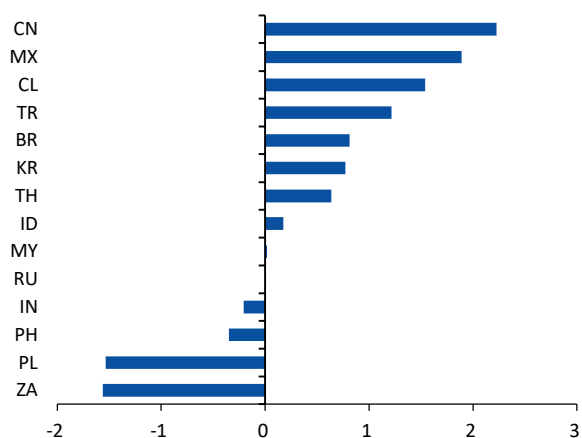
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



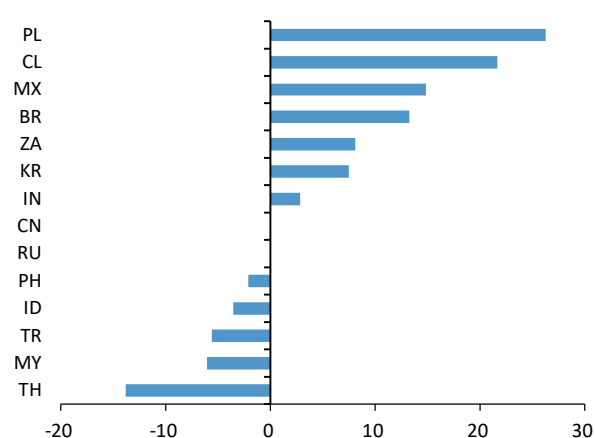
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



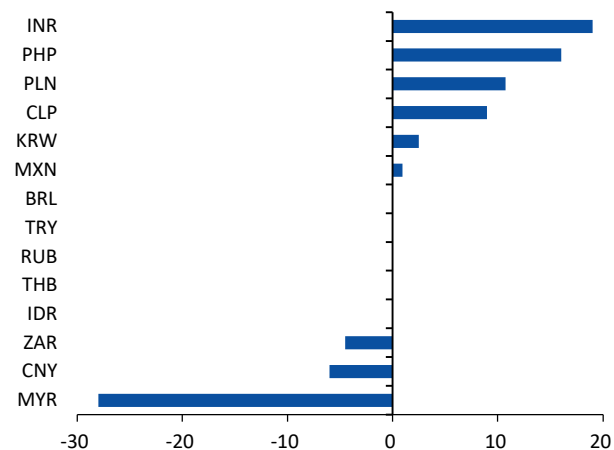
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

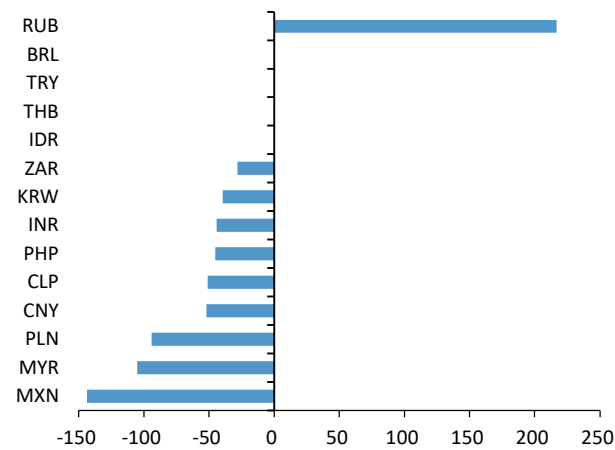
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

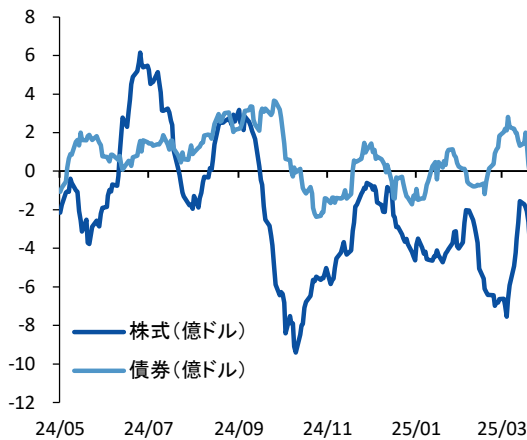


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

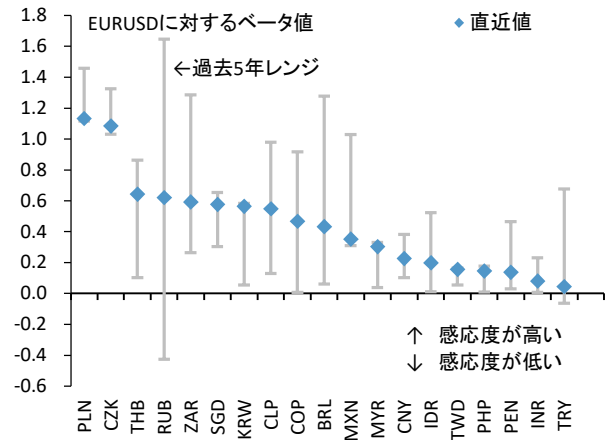
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



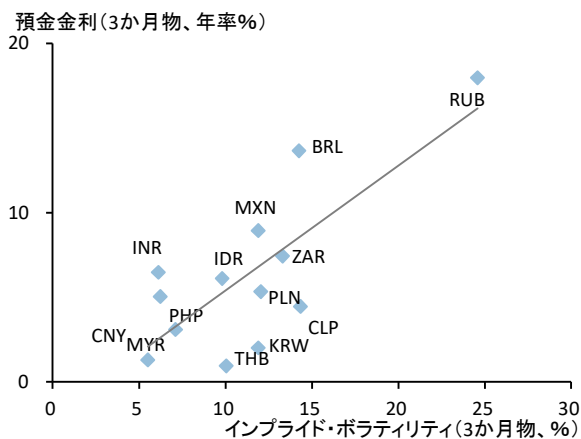
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



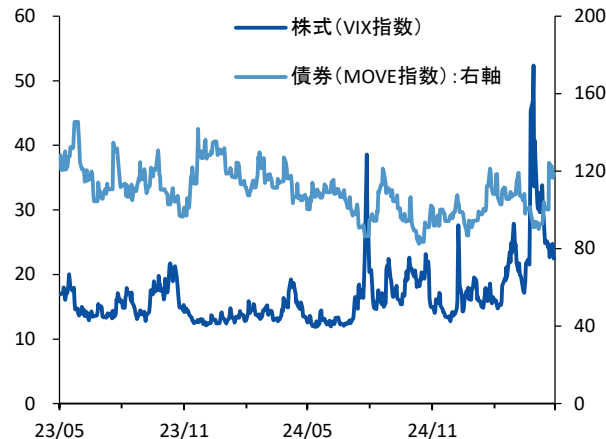
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



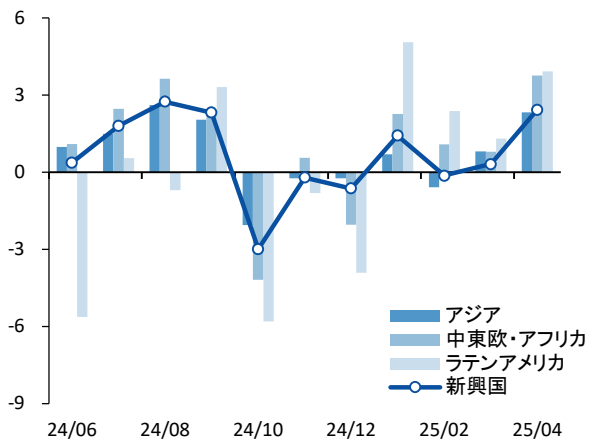
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



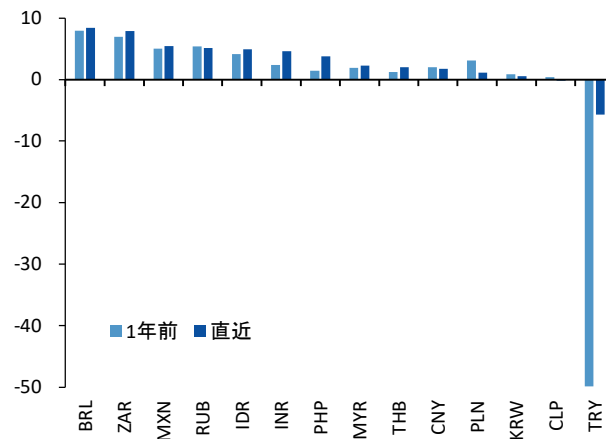
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
5月5日 (月)	インドネシア	GDP(前年比)	4.9%	4.9%	5.0%	--
5日 (月)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	1.1%	-3.6%	-3.5%
6日 (火)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	1.8%	1.4%	1.8%	--
6日 (火)	中国	Caixin中国PMIサービス業	51.8	50.7	51.9	--
6日 (火)	タイ	CPI(前年比)	-0.1%	-0.2%	0.8%	--
7日 (水)	台湾	CPI(前年比)	2.1%	2.0%	2.3%	2.3%
8日 (木)	フィリピン	GDP(前年比)	5.7%	5.4%	5.2%	5.3%
8日 (木)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	2.1%	3.2%	1.5%	--
8日 (木)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	3.00%	3.00%	3.00%	--
8日 (木)	台湾	貿易収支	\$6.70b	\$7.21b	\$6.95b	--
9日 (金)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	\$7177.7m	--
9日 (金)	中国	貿易収支	\$97.00b	--	\$102.64b	--
10日 (土)	中国	PPI(前年比)	-2.7%	--	-2.5%	--
10日 (土)	中国	CPI(前年比)	-0.1%	--	-0.1%	--
12-13日	インド	CPI(前年比)	--	--	3.3%	--
14日 (水)	インド	卸売物価(前年比)	--	--	2.1%	--
15日 (木)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$4329m	\$4327m
15日 (木)	インド	輸出(前年比)	--	--	0.7%	--
15日 (木)	インド	輸入(前年比)	--	--	11.4%	--
16日 (金)	韓国	輸出物価指数(前年比)	--	--	6.3%	--
16日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	5.4%	--
16日 (金)	マレーシア	GDP(前年比)	--	--	4.4%	--
中東欧・アフリカ						
5月5日 (月)	トルコ	CPI(前年比)	38.0%	37.9%	38.1%	--
5日 (月)	トルコ	PPI 前年比	--	22.5%	23.5%	--
8日 (木)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	0.8%	-0.8%	-3.2%	--
9日 (金)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	--	-1.9%	--
13日 (火)	トルコ	経常収支	--	--	-4.41b	--
ラテンアメリカ						
5月6日 (火)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	-5.0%	-7.8%	-6.7%	-7.0%
7日 (水)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	1.5%	3.1%	1.5%	1.3%
7日 (水)	ブラジル	貿易収支(月次)	\$8300m	\$8153m	\$8155m	--
7日 (水)	ブラジル	SELICレート	14.75%	14.75%	14.25%	--
8日 (木)	メキシコ	CPI(前年比)	3.9%	3.9%	3.8%	--
9日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	5.5%	--	5.5%	--
10-16日	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	--	1.0%	--
12日 (月)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	--	--	-1.3%	--
15日 (木)	ブラジル	小売売上高(前年比)	--	--	1.5%	--
16日 (金)	メキシコ	オーバーナイトレート	8.50%	--	9.00%	--

注: 2025 年 5 月 9 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2025年 1～4月（実績）	SPOT	2025年 6月	9月	12月	2026年 3月	6月
対ドル								
エマーGINGアジア								
中国人民元	(CNY)	7.2164 ～ 7.3512	7.2428	7.38	7.23	7.12	7.14	7.11
香港ドル	(HKD)	7.7531 ～ 7.7955	7.7722	7.76	7.75	7.76	7.77	7.78
インドルピー	(INR)	84.470 ～ 87.950	85.719	86.2	85.2	86.2	85.6	84.3
インドネシアルピア	(IDR)	16130 ～ 17224	16502	16560	16400	16500	16250	16000
韓国ウォン	(KRW)	1413.35 ～ 1487.45	1404.40	1440	1420	1400	1390	1380
マレーシアリング	(MYR)	4.3050 ～ 4.5185	4.2805	4.33	4.25	4.29	4.21	4.14
フィリピンペソ	(PHP)	55.845 ～ 58.715	55.624	56.3	55.6	56.1	55.7	55.5
シンガポールドル	(SGD)	1.3011 ～ 1.3751	1.3002	1.33	1.32	1.33	1.32	1.30
台湾ドル	(TWD)	31.927 ～ 33.280	30.283	32.5	32.3	32.0	31.7	31.5
タイバーツ	(THB)	33.04 ～ 34.98	33.02	33.5	32.6	33.4	32.8	32.5
ベトナムドン	(VND)	25038 ～ 26125	25967	26200	26100	26200	26100	25800
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	78.1667 ～ 114.7788	82.5001	80.0	82.0	84.0	88.0	92.0
南アフリカランド	(ZAR)	18.0018 ～ 19.9328	18.2016	18.4	18.2	18.6	18.8	19.0
トルコリラ	(TRY)	35.2419 ～ 41.2972	38.7220	39.0	40.0	41.0	42.0	43.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	5.5934 ～ 6.2270	5.6630	5.80	5.75	5.85	5.90	5.95
メキシコペソ	(MXN)	19.4707 ～ 21.2932	19.5307	19.8	20.4	20.2	20.0	19.8
対円								
エマーGINGアジア								
中国人民元	(CNY)	19.145 ～ 21.666	20.143	19.38	19.92	20.51	20.31	20.39
香港ドル	(HKD)	18.031 ～ 20.403	18.771	18.43	18.58	18.81	18.66	18.64
インドルピー	(INR)	1.644 ～ 1.848	1.702	1.66	1.69	1.69	1.69	1.72
インドネシアルピア	(100IDR)	0.830 ～ 0.981	0.884	0.864	0.878	0.885	0.892	0.906
韓国ウォン	(100KRW)	9.749 ～ 10.916	10.388	9.93	10.14	10.43	10.43	10.51
マレーシアリング	(MYR)	31.951 ～ 35.699	33.811	33.03	33.88	34.03	34.44	35.02
フィリピンペソ	(PHP)	2.470 ～ 2.726	2.594	2.54	2.59	2.60	2.60	2.61
シンガポールドル	(SGD)	107.08 ～ 116.09	112.19	107.52	109.51	110.11	110.02	111.37
台湾ドル	(TWD)	4.310 ～ 4.843	4.819	4.40	4.46	4.56	4.57	4.60
タイバーツ	(THB)	4.150 ～ 4.653	4.419	4.27	4.42	4.37	4.42	4.46
ベトナムドン	(100VND)	0.5401 ～ 0.6253	0.5618	0.55	0.55	0.56	0.56	0.56
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.370 ～ 1.851	1.768	1.79	1.76	1.74	1.65	1.58
南アフリカランド	(ZAR)	7.263 ～ 8.525	8.019	7.77	7.91	7.85	7.71	7.63
トルコリラ	(TRY)	3.565 ～ 4.481	3.758	3.67	3.60	3.56	3.45	3.37
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	23.669 ～ 26.888	25.765	24.66	25.04	24.96	24.58	24.37
メキシコペソ	(MXN)	6.845 ～ 7.790	7.471	7.22	7.06	7.23	7.25	7.32

注: 1. 実績の欄は 2025 年 4 月 30 日まで。SPOT は 5 月 9 日の 7 時 05 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。